

街を育む中津川をキーワードに、「NACCA」結成の今。



盛岡の文化を育てた川

盛岡市内中心部を流れる中津川。川辺散策はもちろん、秋には鮭の遡上も見られるなど、美しい景観の川で知られています。

盛岡藩居城にあたって、北上川や雫石川と共に、城を守る壕として活

かされた中津川。その歴史的な意味は大きく、清らかな水あってこそ盛岡らしい文化が育ってきたといえるでしょう。

盛岡市中央公民館、岩手県民会館、深沢紅子野の花美術館、もりおか歴史文化館、もりおか啄木・賢治青春館の5館によって結成された「NACCA」

平成25年1月、

中津川沿いに建つ5文化施設が

「NACCA中津川流域文化施設連盟」を結成。

歴史の流れと共にある場をつなぐことで、

盛岡の魅力を広く発信しようとして

準備を進めています。



もりおか歴史文化館

館長・畑中美耶子さん



当館は、南部家資料展示と共に、盛岡の歴史や文化などを通して街の魅力を知ってもらおう観光交流施設。年に4回企画展を行う傍ら、夏休みの自由研究のお手伝い、ナイトミュージアムなど、お子さんたちの思い出づくりにも役立てばと思います。

5館を巡るプランをつくるにあたって、何かストーリーを展開していくことで単独ではできない切り口が生まれそうです。また、各館それぞれの「食」の楽しみなども紹介、時間的な流れをイメージできるといいですね。

●開催中の企画展／第12回企画展「江戸のなぞなぞ 判じ絵」

※江戸時代から明治時代の人々が、考え悩み、笑い転げた「判じ絵」と共に、盛岡藩内の絵巻・絵巻資料を紹介。

●問い合わせ／019-681-2100

もりおか啄木・賢治青春館

館長・田口善政さん



今後「NACCA」の連携した企画をするなら、同じ時期に一つのテーマで取り組むとか、5館を巡る楽しみを用意して、盛岡らしい思い出をプレゼントできる企画があってもいい。盛岡は、素晴らしい演奏家が多い街。何か音楽にかかわる企画も実現できたらいいですね。

今回、チラシ用のラックを用意しましたが、来館者は年齢の高い方々や修学旅行生が多いこともあります。情報発信はウェブに頼らずチラシなど紙のカチで広報していくことも大事です。

●開催中の企画展／「欧米のポスター100」展～厳選された秀作

※中村誠氏所蔵のコレクションから、1945年から1990年までの厳選100作品を展示。

●問い合わせ／019-604-8900

CA」。それは各館長が集まる会合での「中津川界隈は歩くのにちょうどいいし、点ではなく面で動けるといい」という雑談がきっかけでした。連盟の協定書によれば、「中津川流域に存在する施設がリンクして芸術文化の振興をはじめ、環境整備、街づくり等の分野で相互に協力し、地域と社会の発展、人材育成に寄与すること」を目的に5館が手を結んだとあります。

「昨年は、お互いの施設がどんな企画や活動を行っているのか、理解し協力しあうことが第一でした。来館したお客様から空いた時間の過ごし方を聞かれることも多いので、情報の共有は、各館にとっても情報発信のポイントが増えるメリットがあります」。

もりおか歴史文化館館長の畑中美耶子さんはそう話します。

高まる熱意をカタチに！

シンプルながら大事な取り組みとして、まずは5館のチラシを入れるラックを設置。予算をかけずに盛岡らしさを醸し出すため、市産材の間伐材を利用したものです。情報共有の準備を整えながら、今後は5館共通テーマでのイベントや企画などを実施していく予定。宮沢賢治、石川啄木、深沢紅子など直接施設にまつわる人物はもちろん、人、モノ、文化、あらゆる面に関わってきた中津川ですから、アイデアは広がります。

例えば、今年立原道造生誕100年。道造が愛してくれた盛岡を記した「盛岡ノート」を題材にとっても、道造が見た愛宕山からの風景、滞在中に耳を傾けたヴェートーベンの「皇帝」、食した味の思い出、賢治をはじめ、当時の文芸家との関わりなど、キーワードは豊富。愛宕山から中ノ橋までの散策や詩の朗読など、誰もが参加しやすい企画ができそうです。建造物という点で見れば、川上にある盛岡市中央公民館別館、川下にある旧岩手銀行中ノ橋支店は共に盛岡出身の建築家・葛西萬司が手掛けたもの。もりおか啄木・賢治青春館もまた盛岡出身の横濱勉の設計であり、街の歴史を紐解きながら歩くことも楽しそうです。

「江戸時代から中津川は舟運の役割を持ち、経済の発展にも大きく関わってきました。また、清らかで豊富な水があつてこそ、酒蔵や染物屋、豆腐屋、鉄瓶の工房など、盛岡らしい生活文化が生まれたのです」。

中津川に深い愛着を寄せるのは、深沢紅子野の花美術館館長の石田紘子さん。5館の連携に強い期待を持っていきます。

「NACA」結成から1年を過ぎ、5館それぞれの熱意も高まってきた今。アイデアを広く募集しながらも、自分たちの手で連携企画を実現することが、今後への大きな足掛かりになると確信しています。

取材／「SANA」企画編集委員会



盛岡市中央公民館
館長・佐々木幸司さん

当館は、庭園を含む敷地が2万1348平方メートルに及び、全国の公民館でも随一の広さです。盛岡市中央公民館別館(旧南部家別邸)は、昨年末に国の登録有形文化財に、今年3月には庭園が登録記念物になりました。

桜や紅葉シーズンは、庭園を見に足を運ぶ人が多い一方、駐車場の狭さが課題なので、5館をめぐって中津川沿いを歩き、当館の庭園をゆっくり楽しんでもらえれば、「NACA」の連携がデメリット解消にもつながります。

●開催予定の企画展等／「南部家の別邸と庭園－文化財登録記念展－」。
※9月下旬から。古地図などゆかりの資料を展示。

●問い合わせ／019-654-5366



岩手県民会館
館長・菊池和憲さん

実は、私自身も「NACA」をきっかけに川沿いを歩く機会が増え、盛岡という街の魅力を再発見する思いです。

当館では月に1回、平日のお昼時間に無料公開のロビーコンサートを開催しています。演奏はさまざまなジャンルの地元演奏者によるボランティアですが、すでに演奏予約が先々まで埋まっています。こうした単独企画の個性も活かしながら、まずは5館がつながる企画を何か一つカタチにし、いずれは他施設にも連携を広げていければと思います。

●イベント予定等／ロビーコンサート(8/7 N響メンバーと仲間たち・9/4西辺邦彦ジャズ)、立川志らく独演会、いわてJAZZ 2014、舞台「炎立つ」など

●問い合わせ／019-624-1171



深沢紅子野の花美術館
館長・石田紘子さん

今、中津川に改めて焦点を当て連盟を立ち上げたことは大きな意味があります。「何をするか」も大事ですが、立ち上げたこと自体、長い歴史の中で人々の生活を支えてきた川の価値を振り返る貴重な機会になったはず。また、その自然の美しさがあったからこそ、深沢紅子という画家が生まれたのだと思っています。

今年は立原道造生誕100年。盛岡の中津川をこんなに愛してくれた人がいたということも有意義に紹介していけたらと考えています。

●開催中の企画展／紅子・省三夫妻展
※結婚後も画家として活躍し続けた深沢夫妻の代表作を展示。紅子が装丁した「花子とアン」の村岡花子の本も展示。

●問い合わせ／019-625-6541